

行仙宿・道普請作業に参加させていただいて

平成26年6月3日

日機装株式会社 皆川 光

この度、5月24日から25日にかけて山登りを体験いたしました。この【山登り】という表現は今では、また異なる言葉で表現すべきだと思いますが、あえて私が当初よりイメージしていた言葉で綴らせて頂きます。

24日当日の集合場所は道普請を行う現地にて集合と、一緒に同行させて頂く、もはらクリニックススタッフ様と決めておりました。私と一緒に終始行動を共にした蛭田は日機装株式会社という透析機器メーカーの一員として普段は働いており、今回の参加もそういった仕事上での繋がりがきっかけで参加致しました。私たちは普段踏み入ることのない広大な土地、自然、そして体験した事が恐らく無いであろう【山登り】に、都会では味わうことが出来ない多少の不便さへの不安と、普段の運動不足をほどよく解消できるのではない、かという期待を持ち、前泊にて十津川村温泉で心身の準備を行い、臨みました。

当日の朝、私と蛭田の不安を取り払ってくれるほどの晴天、順調に集合場所へも到着。山頂での食糧や荷物を背負い、踏み出しました。そういえばこの僕らの【山登り】はしっかりと理由があり、世界遺産保全、大峰奥駆道の修験道の道普請。ただそれは山頂に到着してからの新宮山彦ぐるーぷの方や前回参加者から教えて頂いた事であり、私の【山登り】前半は、山という【物】に対してのただだ

だ感じるがままの感覚が優先し、今回の参加の理由を全く考える事がなく、これは単純に山に魅了されたという事だったと思います。

二日間のスケジュールでは行者が通る際の道、危なくなった細い道の修繕、それらの部材調達の為の丸太運びなどがありました。自らが山で過ごすために必要な物、湧水に関しても一向にとまらない汗を流しながら往復し面致しました。夜は山小屋らしからぬ、自分がイメージしていた質素で素朴な夕食とは違い、大自然を感じつつ、下界では体験したことのない環境でとても豪華なバーベキューをご馳走になりました。翌朝も早朝からの水汲み、朝食も大好きな白米のありがたみを噛みしめ、普段以上に食べる事に感謝し、作業を朝から再開致しました。2日目に関しては、明け方の山小屋を打ち付ける風の強さ、そして壁をすり抜けて身体に染みわたる寒さがとても新鮮で印象に残ります。前日の清々しい、太陽からの恩恵とはうってかわっている、この山の表情に私は強く山らしさを感じました。

【山登り】とはなんなのか、運動不足解消、自然保全、アウトドア、山菜取り、訪れる人により其々意味がもろろんあり、私たちの今回の目的は表記の通りでした。ただ、その目的にひつついていた僕の【山登り】も体験することができ、そして目的を達しました。

山登りは体力的にはしんどく、精神的には解放される環境。春、夏、秋、冬、朝、昼、夜、また参加して感じてみたいと思いました。

大峯奥駆道の道普請に参加して

平成二六年五月二五日

日機装株式会社 蛭田 直樹

この度は大峯奥駆道の道普請にお誘い頂き、ありがとうございます。二〇〇七年より和歌山県に赴任し、八年目となりますが、今まで熊野古道を訪れる事ありませんでした。このような機会がなければこの先も訪れる事はなかったと思います。

恥ずかしいことに『道普請』当日まで読めませんでした。当然、その意味も解らず、山登りをして山道の修繕程度のイメージでしかなく、体力に自信はありませんが、年配の方々も参加されると聞いておりましたので正直、安易な気持ちで参加しました。

迎えた当日、天気は晴天。暑いくらいの気温。人生二回目の山登り。楽しみであるのと同じくらい不安な気持ちもありました。集合場所に到着し、荷物の多さに不安な気持ちになりました。

背負子を背負い、何度も休憩をしながらも山小屋に到着した時は一定の満足感・達成感を感じずにはいられませんでした。出して頂いたミカンと温かいレモンティーは格別でした。

その後は、水汲み、山道の修繕を行い、また、水汲み。普段、蛇口を捻ったり、コンビニで簡単に手に入れることの出来る『水』。自分の足で最低限必要な『水』を確保するのがこれほどまでに大変な作業であるとは思いませんでした。『水』の貴重さを痛感しました。

初日の作業が終わり夕食です。これほどまで年齢や職業の違い

方々と一緒に過ごすことはなく、新宮山彦ぐるーぷの歴史など普段聞けない話も聞くことが出来ました。山小屋での雑魚寝も初めての経験でしたが、熟睡出来たのは疲れと私のどこでもすぐに寝ることの出来る性格？に感謝です。

二日目は水汲み、丸太の調達作業を行いました。初めてのチェンソーを使用しましたが、腰が引けていたのは言うまでもありません。昼食のカレーを完食し、下山となりました。

この二日間で普段通りの生活では経験のすることの出来ない経験をさせて頂きました。その経験に勝る出会いもありました。二日間と短い時間ではありましたが有意義な時間でした。今回参加させて頂きました『道普請』で私が出来たことはほとんど無かったと思います。『道普請』とは単に道を作ったり、直したりすることではありませんでした。多少の【トラブル】はありましたが、楽しく参加することが出来ました。次回参加出来るのであれば缶ビール二十四本分は身軽になりたいと思います。

世界遺産保全ボランティア ～大峯奥駆道の道普請～

平成二十六年五月二十九日

日本ベーリングアーインゲルハイム株式会社 徳舛弘己

この度は、世界遺産保全ボランティア活動として、大峯奥駆道の道普請に参加させて頂きまして誠にありがとうございました。また、仕事の都合上とはいえ、二日目からの参加になってしまった事を深くお詫び致します。恐れいりますが、前知識も無く参加致しました私の感じた事を、レポートとして文章にて明記させて頂きます。

全く登山経験も無い私が、このような貴重な活動に参加できたのも、日頃よりベーリングアー製品で大変お世話になっております茂原先生から、お誘いのお言葉を頂戴した事がきっかけでございます。しかし、私のような経験の無いものが、皆様のお力になる事ができるものだろうか、当日までに不安は大きく募っておりました。

当日になり、現地まで車でたどりつく事ができた私は、辿りついた事だけで少し満足しておりました。その安堵感、平澤様との、山小屋への道のりが始まって十分足らずのうちに、一瞬で消え去りました。二十kgの砂を背負子で背負いながらの山登りは、これ程までも、きついものなのかと、正直申し上げまして、この時は参加した事を少し後悔しておりました。

ですが、そのような後悔も、道中で、時折目にする事ができる壮大な景色を見ると、別の感情に変化しておりました。あまりに

体力の無い自分に情けなさを感じつつ、なんとしても自分の力で登り切りたいという意志が生まれ、それと同時に、この辛さが心地よくなっておりました。今になって考えますと、この時の感情は、実際に経験しなければ一生感じる事ができるものではなかった特殊な感情であったと、思います。

何とか、活動の拠点となる山小屋にたどりついた私は、茂原先生をはじめ、新宮山彦ぐるーぷの方々に、あたたかく迎え入れて頂きました。その際に、召し上がりました朝ご飯はとても美味しく、また缶ビールの味は生まれて初めての味わいでした。

そして、大峯の歴史で、由緒ある『継ノ窟』に、連れて行って頂き、お参りさせて頂きました。未経験の私にとって、ここまでの道のりは命からがらでしたが、洞窟の中はとても神秘的で、日常からかけ離れた空間でした。その後は、間伐材調達作業に携わり、微力ながら活動のお手伝いに参加させて頂きました。

半日だけの参加ではございましたが、ぐるーぷの方々の活動があつてこそ、この大峯奥駆道という世界遺産の環境が維持されているのだという事を、強く実感致しました。また、お手伝いのつもりが、非常に密度の濃い経験の数々で、皆様のあたたかさ、大自然に、逆に元気づけて頂いた事を、深く感謝しております。

次回も参加する事が出来たら、今度こそ、お役に立てるように尽力をつくさせて頂きます。

道普請作業に参加して

平成二六年五月二四日～二五日

平野絵里奈

この度、世界遺産保全ボランティアに参加させていただきました。熊野古道についての知識もほとんどなく、登山の経験のない私がお役に立てるのかと不安を感じながらの参加でした。

初めて背負う背負子に一斗缶と自分自身の荷物を背負い、補給路を登っていきました。ほんの少し登っただけで、すぐく疲れてしまい、何度も休憩を挟みながら、合間に見える綺麗な山々の景色に癒されながらなんとか登りきることができました。

そして、すぐに水汲みに。六リットルの空容器を背負い、水場への道を下っていきました。湧き水を汲み、また山小屋までの道を登るのですが、思っていた以上に水が重く私にとってはこの作業が一番辛いものとなりました。しかし、山での水の大切さを改めて知る良い経験となりました。

作業も少しですがお手伝いさせていただきました。一日目は土や石を集め、バケツリレーのように運んだり、割った丸太を運んだりと出来る範囲でのお手伝いをさせていただきました。

夕方からは炊事のお手伝いをさせていただき、山小屋では考えられないような豪華で美味しい食事をいただきました。楽しい食事があるからこそ、作業も頑張れるんだなと感じました。

二日目は継の窟というところに連れて行っていただきました。

道が険しく、みなさんに助けていただきながら何とか到着できました。険しい岩場を前に内心何度も心が折れそうになっていましたが、良い経験が出来ました。

荷揚げ、作業、炊事どれもお役に立てずでしたが、みなさんに本当に良くしていただきました。日常生活では経験できない体験をたくさんさせていただきました。また、このような素晴らしい活動に参加できることを大変嬉しく思います。少しでもお役に立てることがあるのであれば、今後もぜひお手伝いさせていただきますと思います。二日間という短い時間ではありましたが、素晴らしい経験をさせていただき、ありがとうございました。